

江戸城と城下町を支えた人々

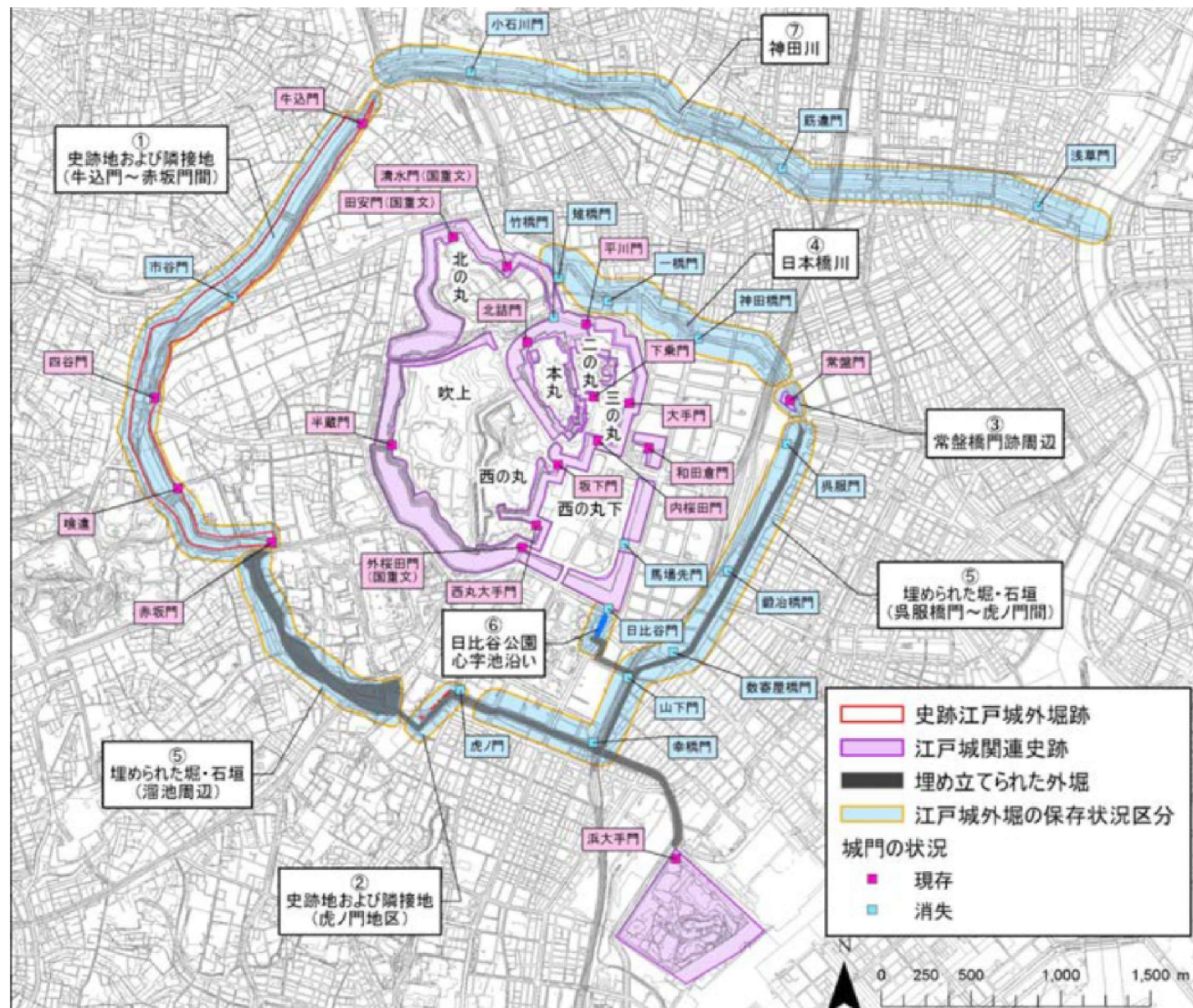
江戸城三十六見附 400万個以上の石で積み上げられた石垣 失われた城門、現存する城門

江戸城には凡そ80前後の城門があり、その内、城門の目ぼしい箇所が36か所あり36見附と称していました。見附とは、街道の分岐点などの交通の要所におかれた見張所です。

城内を警護する番兵と番所は藩などによる役が決められていたようです。

江戸城の石垣は400万個以上の石が使われていると云われています。石垣工事のために集められた人々は、どこから来て、どの様なくらしをし、どのように石を運び積み上げ、何処に帰っていったのでしょうか。

一方、戦略上の重要な枅形と云える桜田門等は、外側に優美な高麗門、内側には防御に役立つ渡り櫓門を配しています。現在、江戸城外郭の正門として重要な役割を担った常盤橋門跡の石垣と常盤橋の修復工事が行われています。



東京の原景観・江戸の人々の眺め

広重や北斎などの名所絵には地形や城の眺望を巧みに取り入れた眺めが数多く描かれています。町人や商人の人波でごった返す日本橋、溢れるばかりの活気や賑わいと共に前方には江戸城があり遥かに富士山を望む。深川木場は雪降る中、筏で材木を扱い働く人達の姿が見えます。山ノ手の丘陵からは起伏に富む地形が創りだす坂や水辺、花鳥や四季の自然美、遠くには江戸湾や隅田川その背景には筑波山も好んで描かれています。

名所絵は江戸の人々の物見遊山の案内図であり参勤交代で訪れた人々の郷里への自慢のお土産であったことでしょう。



北斎「富士三十六景 江戸日本橋」
(国立国会図書館所蔵)



広重「名所江戸百景 深川木場」
(国立国会図書館所蔵)



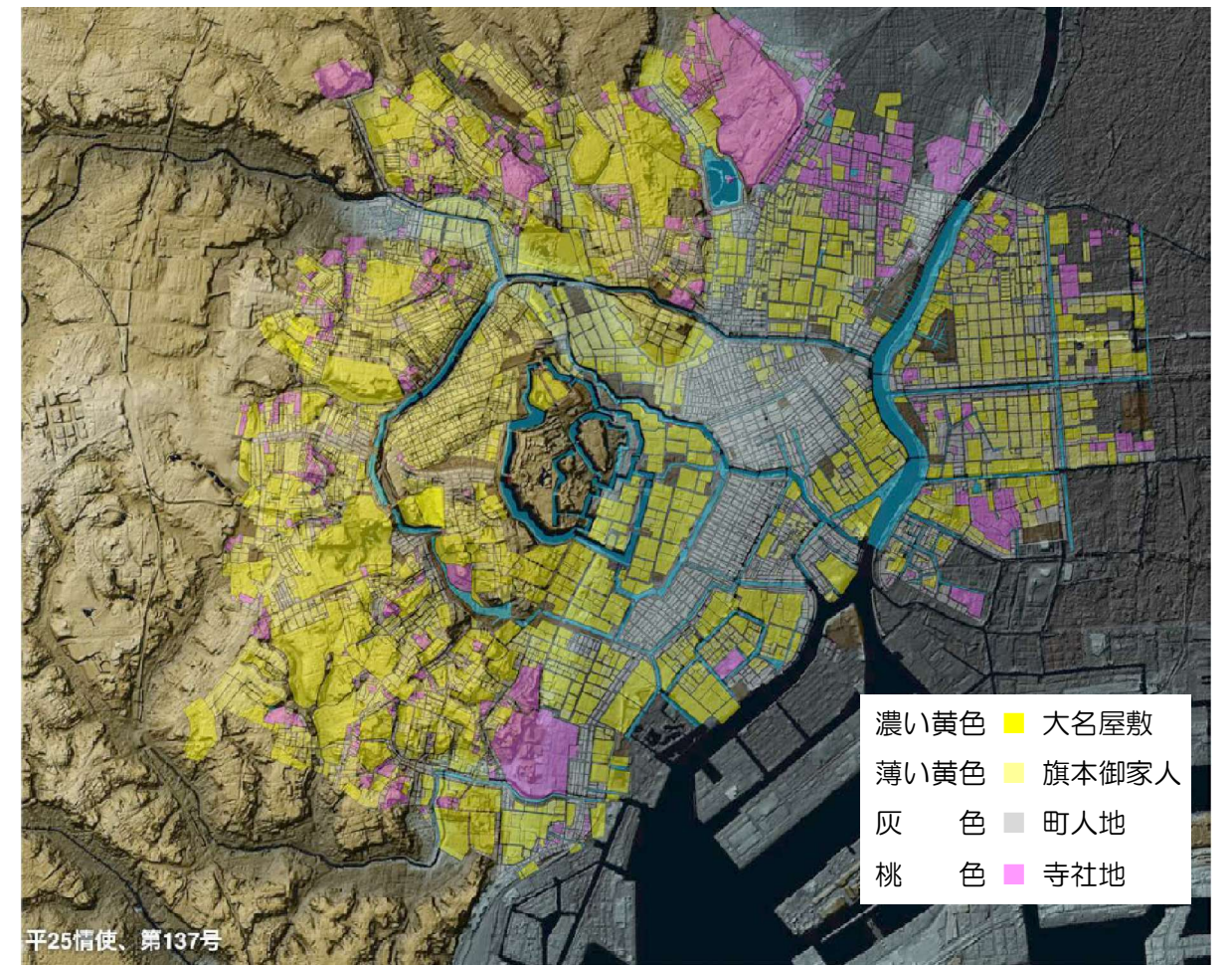
広重「名所江戸百景 上野清水堂不忍ノ池」
(国立国会図書館所蔵)



広重「富士三十六景 東都飛鳥山」
(国立国会図書館)

江戸の自然条件・地形と町割り

江戸の7割は武家地、町人地の神田日本橋等は江戸城の東に位置し北の寛永寺と浅草寺、南の増上寺は武蔵の大地の端にあり古くから地域の拠点になっています。江戸城は湾を見張らず武蔵野台地の先端にあり東に水路が巡る下町、西に緑が多い山手は起伏が多い丘と谷により生き活きとした大地の上に古代、中世の古層の上に、江戸の城下町がつけられました。斜面は湧水も多く小さな川が無数に流れ、生態系や自然条件の固有性は世界でも群を抜くと云われています。



近未来の世界遺産を目指す江戸東京歴史文化まちづくりに向けて

7つの歴史文化ゾーン・江戸編

旧江戸城及び城下町は現千代田区などの8区域の広範囲に及び建造物や史跡等の600ヶ所を対象としました。江戸城の城門（田安・半蔵・外桜田・常盤橋・神田橋）から放射状に延びる旧街道を中心に7つの歴史文化ゾーンの界隈には旧江戸城の遺構の他大名庭園、市民により守られてきた稲荷神社など江戸時代の痕跡を沢山みつけることができます。都市東京の多彩に満ちた現代文化に歴史文化遺産が加わることで奥深く魅力的な東京になるでしょう。

旧江戸城と外堀

江戸城の痕跡は、皇居東御苑に残る江戸城跡(国特別史跡)の石垣や櫓のほか、牛込門から赤坂門までの江戸城外堀跡・常盤橋門(国史跡)が残ります。

田安門から旧上州道沿いの寺院

江戸五口のひとつ江戸城北の丸の田安門(国重要文化財)から牛込門跡を経て神楽坂周辺には江戸時代来の寺社が残ります。

江戸城外堀と徳川御三家屋敷

半蔵門から四谷門跡を経て、四谷大木戸跡、内藤家屋敷跡(現・新宿御苑)へ向かう江戸五街道のひとつ甲州街道をたどります。この界隈は、徳川御三家の紀州藩邸跡と尾張藩邸跡、彦根藩井伊家上屋敷があり、明治維新後に皇室邸宅(北白川宮邸・李王邸、伏見宮邸、閑院宮邸)となります。

外桜田門から東海道界隈の大名屋敷

外桜田門から虎の門の外堀石垣を経て、大名庭園(旧浜離宮恩賜庭園・旧芝離宮庭園)や徳川將軍家菩提寺の増上寺をたどります。

江戸の水辺

神田・日本橋界隈の稲荷と天下祭、旧外堀(日本橋川の大手町川端緑道)に残る石垣や常盤橋門跡、さらに日本橋(国重要文化財)へ続く水辺をたどります。

奥州道・日光御成街道界隈の江戸の寺社

筋違門跡(現・万世橋エキュート)から神田明神・湯島聖堂を経て、寛永寺のある上野をたどります。徳川家綱・綱吉の霊廟建築のほか、谷中の大名墓や近代歴史建築物といった歴史が集積しています。

徳川家の女性にまつわる寺院

伝通院と護国寺には、徳川將軍家に関わる女性の墓所が残ります。また、旧中山道沿いの金沢藩前田家上屋敷跡(東大赤門・三郎池)、柳沢家下屋敷庭園の六義園をたどります。



歴史文化遺産とは・・・

*文化財や未指定の文化財及び地域固有の地域遺産など多様な歴史と文化を総合的にまちづくりに活かす遺産を資産として、次世代に、継承し、未来に託す遺産のこと。

守り伝え繋ぐ人々の物語・・・ 日本文化の優れた特筆すべきこと

現存する神社仏閣、石垣などの古文化財は、長い間、多くの人々の喜びや悲しみ、祈りや感動を受け続けて来ました。現在、その姿を見ることができるのは、私達の祖先や先人達が、今日の時代まで守り伝え繋ぐことに弛まぬ思いや努力があったからに他なりません。他国にみられるように世界的に貴重な地下埋蔵文化財の例とは一線を画して、木造の歴史的建造物などの修復や保存を伝え継承してきたことは世界に類を見ない日本文化の優れた特筆すべきことと云えるのではないのでしょうか。

失われた歴史文化遺産と 甲良家と市中の大工達

江戸城の天守や本丸御殿など多くの歴史建造物は、明歴の大火など度重なる大火により失われ、現代に生きる私達が目にする事は出来ません。江戸城跡には現在も世界に比類ない莫大な歴史文化遺産が埋蔵されています。代々江戸幕府の大棟梁職を務め、城の造営改築を担った甲良家の技術と普請を支えた市中の大工達など多彩な資料や詳細な復元図が今に残され、直ぐにでも復元が可能です。特別史跡における江戸城天守や歴史的建造物の復元のあり方について(理事長特別メッセージ)は、事務局にお問い合わせ戴くかホームページをご覧ください。